

週刊 **タバコの正体**

人間の血管は動脈、静脈、毛細血管を合わせると10万キロメートルもあります。なんと地球を二周半するほど長いのですが、タバコを吸い続けると、どこかの血管が詰まったり破れる危険性が高くなります。

脳卒中

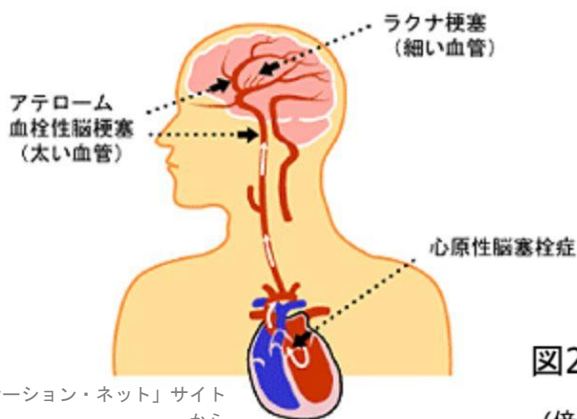
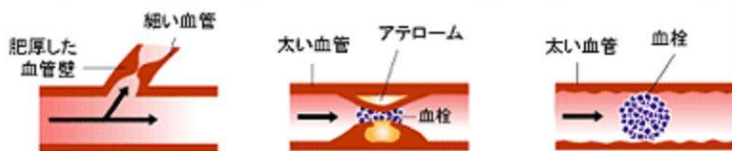
血管が詰まるタイプ

脳梗塞 一過性脳虚血発作

ラクナ梗塞

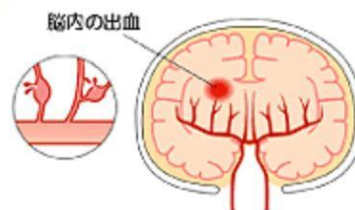
アテローム血栓性脳梗塞

心原性脳塞栓症



血管が破れるタイプ

脳出血



クモ膜下出血

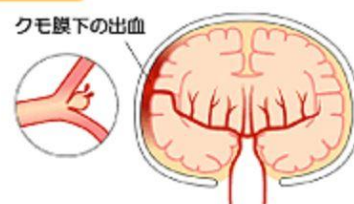
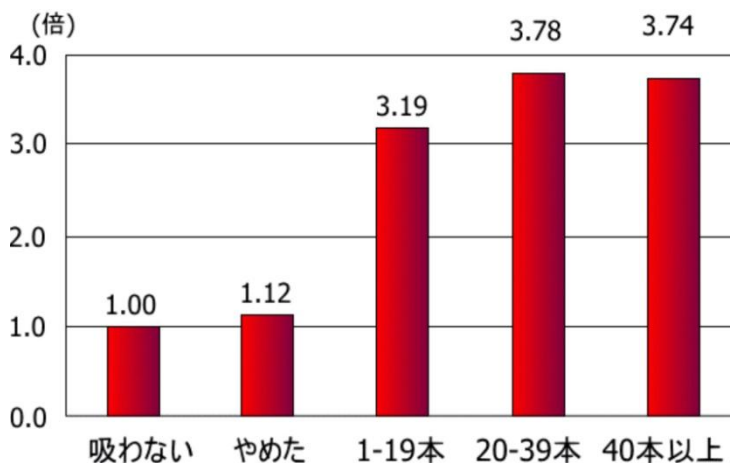


図2 喫煙本数とクモ膜下出血発症との関係(男性)



国立がん研究センター「予防研究グループ」サイトから

「セルフメディケーション・ネット」サイトから

もし脳の血管が詰まると「脳梗塞」、破れて出血すると「脳出血」「クモ膜下出血」という病気になります。いずれも発症後の処置が遅れると脳の損傷度合いが大きくなるので、手足が麻痺するなどの後遺症が残ります。

右のグラフは、タバコを吸うとそんな怖い病気になる可能性が高くなることを示しています。タバコを吸わない人に比べ毎日何本も吸い続けると発症する確率は3倍以上にもなるのです。

こんなにはっきり差がでるほどタバコは血管にダメージを与えるのですから、タバコに手を出すことは危険です。

産業デザイン科 奥田 恭久